



のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo



特集
ともに「きずな」を
振り返る

9月4日、5日に第94回全国民生委員児童委員大会北海道大会が開催されました。43年ぶりの北海道での全国大会となり、登別市からは26名が参加しました。今年度は民生委員児童委員の一斉改選になります。地域福祉活動に興味がある方はぜひ、民生委員児童委員として活動しませんか？

CONTENTS

- P2 特集 ともに「きずな」を振り返る
- P3 歳末たすけあい募金が始まります
- P4 四地区合同チャリティー市民演芸会を行いました
きずなプロジェクト“新日本プロレス×障団連”
ボッチャ交流会が行われました
社協寄付金



2025
11.01 No.170

【発行】 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
 【事務局】 登別市片倉町6丁目9番地1 登別市総合福祉センターしんた21内
 【TEL】 0143-88-0860
 【FAX】 0143-88-4546
 【mail】 info@kizuna-shakyo.jp
 【HP】 https://kizuna-shakyo.jp
 【Facebook】 https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

特集 ともに「きずな」を振り返る

登別市社協では第4期登別市地域福祉実践計画（きずな計画）に基づき、住民主体による福祉のまちづくりを通じて、各種事業を推進しています。

今年度できずな計画は策定20周年を迎え、来年度は第5期策定年度となります。

8月7日に行われた「きずなシンポジウム」では、前半に第4期きずな計画の経過報告、後半では、第1期計画策定時に中心的な役割を担っていた3名による鼎談を行いました。

今回は、鼎談の内容を特集します。

■きずな計画20年の歩みと今後の「福祉でまちづくり」「きずな計画」に込められた思い

きずな大使 鳥居一頼さん

第1期きずな計画策定当時は、社協の認知度が低く、市民が福祉を他人事と捉えがちな中で、「市民が福祉の主役」という、道内では全く前例のない考え方で計画を策定しました。

きずなという名称には、2000年の介護保険制度導入で分断されてしまった地域での支え合いを「今切れちゃいけない、もう一度つなぎ止め、結び直そう」という深い思いが込められています。私はちょっとした困りごとを手助けする力こそが、市民に与えられた「市民力」であり「福祉力」だと考えています。



コロナ禍という困難な状況

でも、地域住民は日頃からのつながりがあったからこそ、ほっとけないという思いで様々な工夫を凝らし、助け合いました。これは「思いがあれば実行できる」ということを示してくれました。

市民として「きずな」を育ててきた情熱

きずな推進委員会初代委員長 山田正幸さん

私は市民の立場で、この「きずな」をどうつないでいくかを考えてきました。

この計画は単なる福祉計画ではなく、自分たちで計画を作り、自分たちで実行するという「福祉実践計画」だと私は強調したいです。

「自分が作ったのだから、自分がやらなきゃ誰がやるんだ」という強い思いで活動しています。

町内会やボランティアなどがそれぞれの違いを乗り越えて協力し、地域福祉を守っていく。そのまとめ役を社協が担っていると理解しています。

私も高齢になり、後継者

育成の難しさを感じています。後継者には、今の「きずな」をそのまま押し付けるのではなく、新しい感覚で作り上げていってほしいです。



私たちの誇り、登別を支える「きずな」

社協常務理事兼事務局長 藤江紀彦さん

コロナ禍では、行政や社協の指示ではなく、日

頃からのつながりがあったからこそ、市民が自ら判断して助け合う行動が生まれました。

きずな計画の最大の成果は、「自分たちの暮らしのあり方は自分たちで決める」という市民の皆さんの思いが、多くの人々の共感と連携によって現実になったことだと考えています。

この「きずな」という仕組み

みは登別の大きな強みであり、次の世代に確実に伝えていくことが重要です。そして、この「きずな」は私たち社協職員にとっての誇りでもあります。



■未来への提言と市民へのメッセージ

3名が共通して語ったのは、「市民が主役」であることの意味と、これからの時代を支える若い世代への期待です。高齢化や人口減少、地域課題の複雑化が進む中、行政や制度だけでは解決できないことが増えるからこそ、「声を上げ、知恵と工夫で動く市民力」が求められています。

きずな計画は、単なる計画ではなく、地域で暮らす一人ひとりが「どのように生き、支え合っていくか」を考える実践の場。これからの第5期に向けて、これまで築いてきた「きずな」を次の世代へつなぎ、新たな感覚で地域福祉のまちづくりを進めていく時期を迎えています。

歳末たすけあい募金運動が12月からはじまります！

歳末たすけあい募金運動

毎年12月に共同募金運動の一環として、新たな年を迎える時期に支援を必要としている人たちが安心して暮らすことができるよう、地域住民やボランティア、民生委員児童委員等の関係機関・団体の協力のもと実施している募金運動です。

お寄せいただく募金は、すべて登別の福祉活動に活用されます。

募金の使いみち

◆きずなのまちづくり助成事業

市民ボランティア団体等が行う福祉活動を応援するために。

◆ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等の生きがいと居場所づくりを進めるために。

◆小地域ネットワーク活動推進事業

町内会による見守り・支え合い活動を広げるために。など

500円以上の募金で1つ贈呈

登別市限定ピンバッジ取り扱い中！



「登夢くん」と「歓迎鬼像」



地獄の谷の鬼火花 20周年記念

へ法人・企業等の皆さまへ 赤い羽根募金付き自動販売機設置で応援！

社内外や店舗前等に「赤い羽根募金付き自動販売機」を設置し、社員やお客様が飲料を購入することで売り上げの一部が寄付されるしくみです。設置場所のご提供や月々の電気代はご負担いただきますが、自動販売機の設置はすべて無料で、管理や商品の補充等の対応はすべて販売業者が行います。なお、新規設置だけではなく、すでに設置されている自動販売機を募金付き自動販売機に移行することも可能です！

企業の地域貢献やPRへつながる取組みです！

皆さまのご連絡をお待ちしています。



新たに設置協力いただきました！

・(株)MONO様

ご協力ありがとうございました。

今年も登別市限定ピンバッジを取扱いしています。今年は2種類！お好きなピンバッジを着用して福祉活動を一緒に応援しませんか？数に限りがございますのでお早めにお近くの取扱い場所、又は事務局までお問合せ下さい。

取扱い場所

- ・登別パークサービスセンター（登別温泉町）
- ・登別中央ショッピングセンターアーニス（中央町）
- ・登別伊達時代村（中登別町）
- ・登別市民会館（富士町）
- ・登別市観光交流センターヌブル（登別港町）
- ・登別市社会福祉協議会（片倉町）

街頭募金のご協力ありがとうございました！

10月から赤い羽根共同募金運動が始まり、14団体の協力のもと市内8会場で街頭募金を行いました。ご寄付いただいた皆さま、募金活動にご協力いただいた団体の皆さま、ありがとうございました！

【協力団体】

おはなしりぼん、富浜町内会婦人部、日本ボーイスカウト登別第一団、登別温泉町内会婦人部、登別更生保護女性会、登別肢体不自由児者父母の会、登別手話サークルしゅわっち、登別手話の会、登別市老人クラブ連合会、登別身体障害者福祉協会、登別聴覚障がい者協会、登別ノルディックウォーキング愛好会、登別朗読ボランティアの会、立正佼成会室蘭教会東支部

【実施協力場所】

イオン登別店、コープさっぽろのぼりべつ桜木店、コープさっぽろしがイースト店、コープさっぽろのぼりべつ東店、スーパーラッキー、登別中央ショッピングセンターアーニス、登別パークサービスセンター、ホームストア幌別店（すべて順不同・敬称略）



登別市共同募金委員会（登別市社協内）
平日9時から17時半 電話：（88-10860）

四地区合同チャリティー 市民演芸会を行いました

10月11日、鷺別コミュニティセンターにて「四地区合同チャリティー市民演芸会」を開催しました。

チャリティー市民演芸会は、市民の皆さまと一体となった地域福祉活動を継続的かつ安定的に支える社会福祉基金を造成するために行っています。今年は15組が出演し、歌や踊りを中心に、趣向を凝らしたステージ発表が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

終盤にはお楽しみ抽選会も行われ、当選された方々の笑顔が会場にあふれました。

本演芸会の収益金は、実行委員会から本会へ贈呈され、市民の皆さまとともに進める地域福祉活動に活用されます。

なお、11月8日には登別地区で、11月29日には幌別地区でチャリティー市民演芸会を予定しています。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



きずなプロジェクト、新日本プロレス×障団連 ボッチャ交流会が行われました

9月15日、新日本プロレス北海道ツアーが登別市を皮切りにスタートすることを記念し、「きずなプロジェクト」新日本プロレス×障団連「ボッチャ交流会」が日本工学院北海道専門学校にて開催されました。

この交流会は、「きずな」の趣旨にご賛同いただいた新日本プロレスリング株式会社様（以下、新日本プロレス）のご厚意により実現したものです。

当日は、登別市障害者福祉関係団体連絡協議会（以下、障団連）による活動紹介に続き、参加者同士がボッチャを通して交流しました。

障団連と新日本プロレスの混合チームで、和やかに作戦を立て合う様子が見られるなど、ゲームを通して自然な交流が生まれていました。

白熱したゲームが展開され、笑顔と歓声に包まれた交流会の終盤には、新日本プロレスから障団連へ寄付金の贈呈が行われました。



寄付者のご紹介（2025年8月1日～2025年8月31日）

（敬称略／単位：円）

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付の目的
2025.08.08	匿名	25,000	社会福祉のために
2025.08.21	わしこうD愛好会	10,000	第41回わしこうダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
2025.08.28	スナック洋子	33,000	本会デイサービスを利用していた御主人の三回忌を迎え、感謝の気持ちとして
2025.08.29	登別地区ビールパーティー実行委員会	87,078	第36回登別地区ビールパーティー益金

愛の小箱等設置協力者のご紹介（2025年8月1日～2025年8月31日）

（敬称略／単位：円）

設置協力者名	期間内寄付金額	累計寄付金額	種別
月とらいおん	3,561	4,561	愛の小箱

※寄付物品なし

上記期間にお届けいただいた団体等のみ掲載しています。